

# ワムタウン 広場

WAM Town Open Space !

7月1日(火) 第84号 2014年/平成26年

協力 医療法人啓仁会/医療法人昭仁会/社会福祉法人栄光会  
医療法人社団紫雲会



■ 発行 ワムタウンネットワーク推進協議会  
〒359-1152 埼玉県所沢市大字久米5-3-2番地1  
TEL 04-2997-5510 FAX 04-2992-5544  
http://www.wam-town.jp/ E-mail:koho@tl-wam.or.jp



## ごあいさつ

医療法人啓仁会 吉祥寺南病院 (東京都武蔵野市) ・ 医療法人啓仁会 所沢ロイヤル病院 (埼玉県所沢市)

### 医療法人 啓仁会 吉祥寺南病院 (東京都武蔵野市)

#### 退職のごあいさつ



吉祥寺南病院 前院長  
秋元 芳典 (循環器内科)

今回、私事により吉祥寺南病院を退職させていただきますことになりました。平成19年より吉祥寺南病院へ勤務し、院長を

#### 新院長のごあいさつ



吉祥寺南病院 院長  
山下 重雄 (消化器外科)

平成26年6月より、院長を拝命いたしました 山下 重雄 と申します。

2008年1月より「医療法人啓仁会 吉祥寺南病院」として事業継承し、地域の皆様からの信頼を得られる病院作りを心掛けてまいりました。

わが国は高齢化社会が進んでおり、2025年には、ピークを迎える予想されています。この2025年問題に向け、国の医療・福祉に対する施策である「地域包括ケアシステム」の構築がいよいよ本格的に取り組みはじまっています。中

させていただきます。皆様のご支援もあり何とか病院を継続することができました。私の力不足もあり、まだ足りない部分はあると思われま。現在もいろいろな計画が進行している中、退職となり吉祥寺南病院の皆様および医療法人の皆様にはご迷惑をお掛けし、大変申し訳ありません。先生方、スタッフの力により吉祥寺南病院は地域の病院として根付いてきたと思われま。今後の吉祥寺南病院の発展を祈っております。これからも山下院長先生をはじめ吉祥寺南病院の応援をよろしくお願い申し上げます。

改めて、当院が地域の皆様にとどのような医療を提供すべきかを明確にしていかなければならないと考えております。

開設以来、二次救急医療機関として、急性期機能を強化してまいりましたが、これからも急性期病院として地域の皆様が罹患されたときに安心して受診いただけるよう365日・24時間体制で医療サービスを提供していく所存であります。

また、早期退院が困難な患者様には治療・リハビリテーションを継続していただける回復期病棟も併設しており、在宅復帰に向けた取り組みを職員一丸となつてサポートさせていただきます。

今後、地域医療における機能・役割分画が進む中、近隣の病院・クリニックとの連携を更に充実させ、この地域の医療体制の確立に向けて一翼を担ってまいります。安心しての医療サービスを提供に向けて全職員で努めてまいりますので、吉祥寺南病院をよろしくお願ひ申し上げます。

#### 入職のごあいさつ



吉祥寺南病院 内科部長  
柳町 健一 (消化器内科)

平成26年6月より赴任させていただきました 柳町 健一 (やなぎまちけんいち) と申します。

東京慈恵会医科大学を卒業後、武蔵野赤十字病院、都立府中病院(現 都立多摩総合医療センター)等にて、地域医療を中心とした一般内科、主に消化器内科のトレーニングを積んでまいりました。

今回ご縁があり、吉祥寺南病院にお世話になることとなりました。医師としての技量はまだまだ未熟ではございますが、消化器内科の特長を生かしながら、地域の皆様の期待に応えられるよう、尽力していきたいと考えております。皆様どうぞ宜しくお願い致します。



吉祥寺南病院 外科部長  
阿南 匡 (消化器外科)

平成26年7月より入職いたしました 阿南 匡 (あなただし) と申します。

平成11年より久留米大学医学部を卒業後、東京慈恵会医科大学外科学講座に入局し、消化器外科医として研鑽を積んでまいりました。

今回ご縁があつて吉祥寺南病院にお世話になることになりました。地域医療、救急対応を含めた急性期医療において、自身の特色を活かして貢献できればと考えております。

皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

### 医療法人 啓仁会 所沢ロイヤル病院 (埼玉県所沢市)

#### 入職のごあいさつ



所沢ロイヤル病院  
古谷 慎一 (内科)

今年の5月から所沢ロイヤル病院に入職いたしました、古谷慎一(ふるやしんいち)と申します。四国の出身で日本大学を卒業し、京都府立医大消化器内科入局後は主に関西で勤務してまいりました。

今回、ご縁があり所沢で勤務させて頂くこととなりましたが、大学が関東であったため、関西から何の心配もなく転居できました。

働き始めてからまだ1ヶ月程ですが、院長先生をはじめ先生方また看護師さんなど病院スタッフの方のおかげで気持ち良く働くことができている。

埼玉、東京地区の高齢者医療は、間違いなく今後もその重要度を増していくものご推察されます。

私自身も高齢者特有の問題と向き合い、何が本人にベストなのかを考えていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。



# 『1円硬貨で厄祓い』

vol.2



医療法人昭仁会

介護老人保健施設 四季の里(埼玉県新座市)

支援相談員 前島 圭

前回は埼玉から自家用車で一人で厄払いの目的に徳島的美浜町にある薬王寺へ行き、『1円硬貨の厄払い』を無事終え、おみくじで大吉も引き、祈祷の申し込みもすませ、今年の安泰を確信し、最後のゲン担ぎに腹ごしらえも兼ねて「厄除けうどん」で有名な門前の食堂に入ったことまで書いた。

さて、入店後名前を書くところ5分程で店員さんが、「相席でよければー」と声をかけてくれた。そこには先客である初老の夫人がいる4人テーブル席に案内された為、対角線側に座る。彼女はコーヒーを飲んでいたが、恐らく70代、薄茶色で半透明のサングラスをつけ、派手目の化粧、また服は黒の毛皮のコートをひっかけ、中には大きなヒョウが前面に刺繍された紫のセーターという装いで周りを圧倒するオーラを放っている。いかにも「秘密のケンミンショー」のインタビュアーに出てくるような関西のおばちゃんといういでたち。多少嫌な予感がするも、すぐにたのんでいた『厄除けうどん』が席に来た為、「すべからお暇しよう」と特に構わず手をつける前に何となく思いついた記念の写真を撮る。うどん自体は何の変哲もないぎつねうどん。違いは出汁が関東と違い薄いこと、直径3cm程度の丸餅が入っていることである。写真を撮りデジカメを机に置き箸をもったその時である。対角線側から口が開かれた。「写真がお趣味ですか?」「えっ?まあ、趣味というほどではないんだけど...」全く予想だになかったタイミングと質問にだじろいでしまった。最近ブログで撮ったものをインターネットであげる人もいて行為としてはそう珍しいこともないと思



厄除けうどん

思うが彼女には「写真が趣味」に見えたのだ。仕方ない。『関西おばちゃん』は畳み掛ける。「私はね、2年前に交通事故で足を悪くして、階段が登れないの。だから連れが参拝している間ここで、ひとりで待っているの」と。その後も私の空腹という都合を他所に「私は徳島の阿南市から来た」と。私、いくつに見えよう? 『80才?まあ初めて言われたわ77よ。』私は気を遣い60代ですかと言ったのだが代が都合よく聞こえなかったか? 『息子が3人いて、末っ子は徳島商業で甲子園にいったの。県立だから応援は皆、家族だから私とりまお手を貸してやっただけのこと。また夫とは結婚前2年間求婚しては断られ続けたがついに大恋愛が成就し結婚。3人の子をもつけたが早くに夫に先立たれ、仕事を3つ掛け持ちして女手ひとつで3人の息子を育て上げた』こと等等、約30分以上の時間、貴重な高説を賜った。ちなみに私はその間う

どんを2〜3本すすただけで「はあ」「へえ」それは大変でしたね。」と職業病目を合わせながら合の手を入れている。その後、関西おばちゃんから漸く「お宅はどこから?何をしに?」と発言の機会を与えられた為、「埼玉県から車で。今年42歳の本厄なので厄除けに来ました。」と答えてしまったのが運のつき、今までの私の厄除け参拝の苦勞をひっくり返す爆弾発言が訪れることになる。「あ、そうなんか。思い出すなあ。亡き夫が42歳の本厄の正月も薬王寺で厄除のお参りをいっしょにしたんやっただけ。その半年後に癌で亡くなってしまったのよ。そう言えば、決してジョークではなくあくまで大真面目に話しており、目には涙をためている。彼女に被害者の意識はない。『はあ、何今話。』ここで厄払いして半年後に死んじゃあかんやん。(ちなみに薬王寺のご本尊は薬師如来であり、病氣や薬の仏様である。)全くこの関西おばちゃんなんて事言わはるねん。わいはこのお寺で厄を落とす為に来て、いろいろやっとなん。うどん食わずにあんたの話聞いて、こんな情報聞かされて。泣きたいのはこつちやわ。』何故か関西弁になってしまった(関西の方を揶揄する意図はもうとうございませぬ。)が、もちろん心の中の私の叫びである。関西おばちゃんはおもしろその理屈には気付かず、悲観的になっている私をよそに悲劇のヒロインを演じ話を続けている。ちなみにうどんは1割程度しか食べておらず冷たくなる。不思議と麺は伸びていない。恐らく冷凍ものなのか、食品添加物の賜物か、名物うどんも現代の食文化には勝てない。その内に彼女の連れの初老の男性が顔を

出した。結局連れがいないのが自分だけであることに今更ながら気付く。ますます気分は沈んでくる。泣きつ面に蜂とはこのことをいうのだらうと思つた。関西おばちゃんは満足気に「この兄ちゃんなん、私の話をよけ聞いてくれてん!ありがたかつたわ、うどん延びてすまんかったな、ほなさいなら。」とあつと言つ間に帰ってしまった。

残された私には、言い知れぬ虚脱感といつか虚無感無力感が、延びない麺ともに残つた。先程席に案内してくれた店員のお姉さんが様子を見ていたのか申し訳なさそうに「お客さん、お相手ありがとうございました。うどん延びましたね。」と声をかけてくれた。「帰ろう。」会計時にうどん代をもしや免除してもらえませんか?と普請に請求された。ただ店員さんの感謝の一言は大変有難かつた。

全くの災難としが言いようがない出来事であった。正月早々のジエックコースターのよつな気分の落差でとつと疲れがでる。何事もほどほどが良かったのだから、兎に角参拝が消化不良となってしまった為、体を清め垢という厄を落とす意味でも敷地内の『薬王寺温泉』に入ることに決めた。ここも薬王寺が運営しているようだ。手広くやっている。営業時間が開店30分前にも関わらず、交渉するとOK!というところで開店前に入れてくれた。誰もいない温泉で一番風呂を味わい、気分よくラジウム温泉を満喫した。湯に入りながら今回の事件について忘れようとするがつい考えてしまう。先程の関西おばちゃんも天真爛漫な本人の性格であり、こちらに対して精神的苦痛を与えようなどと思図するよつな、悪意は全くないのだから。ただこちらが厄年に過度に敏感になりすぎているだけなのであろう。むしろ一人の初老女性の生き方を疑似体験でき教訓をもらったことは、相談員として人間として成長できたのではないかと湯船に入りながらリラックスしてみ、漸くそう思えた。また、むしろ彼女から私に対しての「厄除け参拝したからといって安心したらあかんぞ。兄ちゃんのいつも心掛けやで。氣つけなや。旦那み

